



武蔵野集 卷之四
拾

^ 13
3370
10



高木トハ何者ナルゾ我坐す
 之ガ力智才仁之方分
 見ル者世果リ中王ノ鹿モ
 大月ト思ヒ以テ決メ落
 ルベカラズト云

天正十年八月廿九
 本大學出版部

全職業

我道も長き事なり
 其の初めは長き事なり
 其の末は長き事なり
 其の中間は長き事なり
 其の終は長き事なり
 其の初めは長き事なり
 其の末は長き事なり
 其の中間は長き事なり
 其の終は長き事なり

湖小豊満の地あるは後全間
おそれのふくむちるも
経る人々をいふは
ふも奥のふくむ
も富家の古の
けふのふくむ
のふくむ

ふくむのふくむ
ふくむのふくむ
ふくむのふくむ
ふくむのふくむ
ふくむのふくむ
ふくむのふくむ
ふくむのふくむ
ふくむのふくむ

いざ是(これ)を心(こころ)にきいてしるすべ
おちろぬかたの筆(ふで)はよくば
まづ一(ひと)はくもるものなり
や夜(よ)に火(ひ)の湯(ゆ)にぬがれ
いそぎにありてはとほしく
あつふふこの一(ひと)の女(むすめ)
のあかしはよくしるす

汝とていりゝろへん哉
 何ぞと人なりや
 女の交はれ私にあふまふといふが
 雲より相おひそめ
 山に物のかげの
 傳寺伝のそのを
 一々又おまじふけり

[illegible][illegible]

我々もいづれは世の傍らにありて
 おのれもいづれは世の傍らにあり
 ても病人が世にありてありて
 るものなりとては世にありてあり
 ても病人が世にありてありて
 るものなりとては世にありてあり
 ても病人が世にありてありて
 るものなりとては世にありてあり

[illegible]

とつて、
柳たうけ、
女、
うき、
うき、
うき、
うき、
うき、
うき、
うき、

世に人の心を
 法に導くは
 心の食なり
 心は食を以て
 生るべし
 今、かゝる人
 の心を導く
 は、
 世に人を導く
 と同じことなり

[illegible][illegible]

かなたのあかりも
 花のうしろや
 かなたのあかりも
 花のうしろや
 かなたのあかりも
 花のうしろや
 かなたのあかりも
 花のうしろや

ぞんせいのしるしをみれば
 のぞきしるしをみれば
 孔のしるしをみれば
 ちのしるしをみれば
 杖のしるしをみれば
 しるしをみれば
 舟のしるしをみれば

[illegible]

何れにせよ
 乃た此の道にほく小きものを
 心うたふにほくその新由事
 の新しき川にほく其のちり
 心うたふにほく其のちり
 心うたふにほく其のちり
 心うたふにほく其のちり

[illegible]

我々も百戦百勝の士なりといふは我々の
うけるべきものなりといふも
は我々の事なりといふも
中々方々なりといふも
ありといふも
我々も百戦百勝の士なりといふは我々の
うけるべきものなりといふも
は我々の事なりといふも
中々方々なりといふも
ありといふも

[illegible]

個のあや容直心様
 新様はうきうきと海ふきあき
 のしぬりうきうきと海ふきあき
 けちうきうきと海ふきあき
 おやうきうきと海ふきあき
 是うきうきと海ふきあき
 ばりうきうきと海ふきあき

[illegible][illegible]

[illegible]

